

(株)サニックス 2021年3月期第1四半期決算説明会概要

日時：2020年8月18日 13:30～14:30

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から電話会議形式にて実施

取締役常務執行役員 企画本部長 兼 管理本部長 兼 経営企画部長 井上 公三

2021年3月期第1四半期は、前年同期と比較して増収増益となった。新型コロナウイルス感染拡大という社会情勢の中、緊急事態宣言の発令を受け、第1四半期においては新規の営業活動を自粛したことなどの影響は避けることができなかった。しかし、業績としては、最小限の影響に留めることができ、前年同期を上回る業績となった。また、中期経営計画の2年目としては、比較的良いスタートが切れたと思う。

一方で、新型コロナウイルスの感染状況については予断を許さず、直近でも再拡大の傾向があるとも言われている。2021年3月期の通期見通しについては、ある程度収束していく前提に計画しているが、今後の社会及び経済情勢次第では、乖離が出る可能性があると考えている。

まずは、大きな環境変化の中でも安定的に事業運営ができるようしっかりした顧客基盤をつくっていくことが重要と考えている。全体としては、お客様、得意先、従業員の安全に最大限留意しながら、事業活動を継続していこうと考えている。

(以下、決算説明会での質疑応答の一部。)

Q： 環境資源開発事業部門：前期、廃プラスチックの単価が上昇傾向にあったと思うが、需要と供給でみるとどういった状況にあるのか。供給状況に変化はあるのか。

A： 前期においては、単価が大きく上昇した。市場全体では、中国等の廃プラスチックの受入制限等もあるが、当社としては、受け入れる廃プラスチックの精査を行い燃料としての品質の向上に力を入れたことから上昇した。今期の計画の前提として、前期末程度の単価で置いている。一方、受入量については、新型コロナウイルス感染拡大の影響で社会全体の経済活動が停滞し、廃プラスチックの排出量が減少したことに合わせて1割程度減少した。徐々に回復していくと考えているものの、すぐに元通りになるとは考えにくく、少なくとも今期中は影響がある見通しである。

Q： SE事業部門：FIT制度の改定にともない、全量売電から自家消費へ変わっていくが、工事はどういったものに変わっていくのか。

A： 自家消費向けとしては、使用資材については大きな変更はない。設置先は、これまでは全量売電で土地に太陽光を設置するケースが多かったが、これからは、工場や店舗の屋根に設置するケースが主となると考えている。また、工事の中身については特に変更はないが、お客様の設備や使用電力量、使用環境等に適した提案を行う必要があるためより高度な営業スキルやシミュレーションが必要になると考えている。

Q： SE事業部門：FIT制度改定にともない、営業先はどういった先が変わるのか。また、競合先に変化はあるのか。

A： 営業先については大きく変わらないが、これまで全量売電で太陽光を設置してきたお客様の中には、工場や店舗を保有されている方もいらっしゃるため、まずは、そういった施設等への設置の提案を考えている。競合先については、基本的にこれまで太陽光を設置されてきた会社を中心に、大きく変わらない。しかし、FIT制度を前提としてきた業者においては、お客様の電力使用状況を読むスキルや適切な提案力という点で、当社が優位にあると考えている。

以上